

120年の歴史に感謝を！  
 (感謝の念を抱きつつ多くの町民の参加に期待する)  
 どうする「買い物難民」  
 (宅配システム等の検討の場を設ける)



後木幸里 議員

開町120年に感謝の場を設けては

**質問** 開町120年という記念の年に、様々な記念事業が計画され、いずれも多くの町民の参加があり盛会裡に執り進められているのは喜ばしい。また、今年は好天が続き実り多い出来秋が期待されている。そこで、10月に予定されている味覚まつりにおいて、開拓の鍬を振った先人、道内有数の美田を作り上げた先祖、今も懸命に土と生きる方々に感謝する場となるような行事を考えてはどうか。

**町長** 開町120年の節目の年に計画した諸行事が町民の皆様に参加をいただき、ここまでは所期の目的が概ね達成出来たと感謝している。加えて文

化団体や体育団体等にあってもこの記念の年に相応しい記念行事の開催があり、それぞれが心に残る内容であったと感じている。味覚まつりにおいて「感謝の場」を設けてはこの質問であるが、そもそも「味覚まつり」は一年の収穫を喜び合い、実りの秋に感謝する集いとしてスタートしたものであり、そこには苦労した開拓先人への感謝の念、家族の健康、長寿の喜び、まちの隆盛などへの願いや喜びを心に秘めながら人々が参加する行事だと思う。この任にあたる観光協会は、鋭意準備を進めており、例年同様大勢の参加があるよう期待している。私も感謝の気持ちを忘れず参加し、町民とともに味覚まつりを堪能したい。



笹木 正文 議員

移動・宅配システムを立ち上げては



標津町商工会の移動販売車(今年4月)

**質問** 本町の高齢化比率は32%まで進み、幌加地区のように限界集落もできている。また、近年農村部では、JAの店舗が撤退したり、採算が合わない商店が廃業に追い込まれた現状もあり買い物難民といわれる事態が起きてくると考えられる。

町は、高齢者や過疎地域に住む全ての町民の暮らしを守る必要があると考えられるが、この先この問題が表面化する前に、関係機関を交えて、移動販売システムや宅配システムを検討してはどうか。

**町長** 最近、過疎によってスーパーが閉店したり、高齢により買い物が出来なくなったりする買い物難民・買い物弱者が問題視されている。その数は全国で600万人もいると統計で出ている。

買い物難民と言われる定義は、

- ① 近くのスーパーまで自転車で1時間かかる。
- ② 今まであったスーパーが撤退してしまった。
- ③ 自動車が発行できなくて買い物に困っている。

以上のような内容である。本町にも、この条件に当てはまる地域に住む方が多数いる。

一部、JAピンネが宅配サービスを実施しており、直ちに支障をきたすことは無いと考えるが、この体制も恒久的なものではない。

本年4月から標津町商工会が町内を巡る移動販売車の運行を始めているが、このような事例を参考にして、関係機関による移動販売システムや宅配システムの検討の場を設けたいと考えている。